

KTK
NO.95

後援会費郵便振替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

編集 あらぐさ後援会
編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会
〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3
TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215

全障研 熱気あふれる京都大会



8月6日(土)、7日(日)に約3000人参加のもと、京都にて全国障害者問題研究会第50回全国大会が開催されました。

1日目の全体会は京都国際会館で盛大に行われ、文化行事「Plus 1 Action」では京都に暮らす当事者の聞き取りをもとにした発表がありました。成人期ではあらぐさメンバーがスクリーンに登場し、生活の様子やねがいが発表されました。

2日目の分科会にはあらぐさ・いろどりの職員6人がそれぞれの分科会へ参加し、半年間現場で作ってきた実践レポートを発表しました。要員、ボランティアなど、スタッフとして運営にもたくさんの職員が携わり、大会を作り上げていきました。

多くの人達の熱意と活気あふれる2日間でした。6ページで参加者の感想などを紹介しています。

笑顔と自立

～ 豊かな生活へ一歩一歩



正恭（まさゆき）さんは39歳、お家は向日市です。あらぐさでの好きな仕事は、ピースやさりを織ります。最近は染めの仕事もしています。



おいたち～誕生の頃



予定日より早く生まれましたが、体重は2520gありました。ところがお乳を噴水のように吐いて、体重は1800gにまで下がってしまい、京大病院の未熟児センターに入院しました。十二指腸狭窄が原因と分かりました。鼻注経管栄養で母乳を飲ませ、体重の回復を待ってやっと手術ができました。

1か月で退院して家に帰ってきましたが、鼻注栄養は変わらずでした。口から飲めるようになって、1回に10cc、20ccという量で、お母さんは一日中授乳に追われていました。2か月でお宮参りができました。ところが今度は腸捻転を発症、再入院して手術をしました。家族の方は、正恭さんが大きくなるまで、毎年5月になるとこの頃の事を思い出しました。



小さい頃大事にしたこと

その頃お母さんは保育士をしていましたが、正恭さんの健康を考え退職を決意しました。2歳の時向日市に転居。同じダウン症のアキオさんの家族と知

り合いになり、ポニーの学校に行き始めました。ポニーで知り合った友達やお母さん達とは、障害児児童や進路のこと等、何でも相談し一緒に活動してきました。3歳からは、保育所にも並行通園するようになりました。4歳の時に妹が生まれ、正恭さんの保育園の送り迎え等、近所の人たちに助けられました。その方々とは、今も長いおつきあいが続いています。

正恭さんが小さい時から、お母さんには子育てで大切にすることがありました。健康な身体づくりや生活習慣を身につける事、身辺自立の力です。一年中薄着や素足で過ごし、食べることを生活の中心にしてきました。お座りができるようになるとすぐ、おまるに座る習慣をつけました。靴をはく、脱いだらそろえる、着替え、服をたたむ等、自分でできるように努力をしました。



向日が丘養護学校に入学

1年生の時から、からだを動かすことや手指を使うことを取り組みました。正恭さんは毎朝先生に、「なっとう」と朝ごはんを報告、着替えを自分でしたり靴をそろえたりと、小さいころからの生活の力を、学校でも発揮していました。お箸を上手に使えるよう練習したのもこの頃です。

歌や踊りが大好きで、中でも音楽に合わせて全身を動かす「リトミック」は、生き生きと取り組んでいました。民舞の「荒馬」は、正恭さんのおはこです。馬のフープを持ち、友達と一緒に踊り合う躍動的な姿が印象的でした。西山での活動や善峯寺マラソンにも取り組みました。

スクールバスに慣れてくると、2歳上のアキオさんといっしょに、バス停から家まで一人で帰る練習を始めました。お母さん同士交代で見守り、練習し

ました。障害児学童に入ってから、阪急西向日駅から家まで、一人で行き来できるまでになりました。

中学部に入ってから、寄宿舎生活は、とても楽しく過ごせました。先生からは自分の物の整理や片付け等、生活習慣が身につくと誉められました。

地域で暮らす



入学後すぐに障害児学童「がんばクラブ」に入りました。自主運営のため、他のお母さん達と一緒に頑張りました。いろいろな集まりに出掛け、勉強しました。丹波養護学校へ、取り組みについて話をしに行ったこともありました。



正恭さんが9歳の時、弟が生まれました。その頃は学校から帰ると、自転車にまたがって近所の犬を見に行くのを楽しんでいました。犬の反応が面白く、鎖につないである犬の方に物を投げたりする遊びをしていました。犬が吠えて、近所から苦情が来ました。お母さんは正恭さんの関心を違うところに向けようと、小さい弟を連れバットとボールを持って、公園に行くようになりました。近所の養護学校のお母さん仲間が、ボール投げの相手をしてくれることもありました。正恭さんはこの遊びにはまり、以来ずっとバットとボールを持って遊びに行くようになりました。

小学部の時に、お母さん達とあらぐさや寄宿舎の職員で「さくらの会」が結成され、卒業後の進路について考えていくことになりました。いろいろな機会を通して「親が成長した」というのが、お母さんの実感です。

向日が丘高等部卒業後は、あらぐさの「さくらん

ぼの家」に入りました。今はあらぐさで、畑づくりやビーズ、さをり織りの活動をしています。いつも笑顔がたえない正恭さんです。

自分らしい楽しみがいっぱい



音楽が好きな正恭さんは、「命輝け京都第九コンサート」の練習にも参加しました。お父さんの長岡京市第九の会で合唱するビデオを見て、「行きたい」と始めたそうです。練習に通うのは大変でしたが、従妹やガイヘルさんと一緒にがんばって通いました。これまでに3回、京都コンサートホールの舞台に立っています。

親子太鼓サークル「でんでん」には、母子で参加して15年以上になります。月2回、太鼓や民舞を練習しています。ガラシャまつりや高齢者事業所の運動会のオープニング等、文化行事に出演しています。

平日は、「ケアホームいろどり」で生活している正恭さん。いろどりが大好きで、あらぐさから帰ってくると、必ず晩御飯のメニューを聞いています。土日曜日は、ガイドヘルパー制度を利用しています。友達と、カラオケやボーリングに出掛けています。最近は平日にも利用し、いろどりからヘルパーさんと、散歩に行くことができるようになりました。

家族の願い



お母さんは60歳でヘルパー資格を取り、正恭さんがいろどりに入ってから、ヘルパーとして働くことが生きがいになっています。映画やランチにも出かけて楽しんでいます。

幸いいろどりに入所でき、設立に対していろいろな方に応援していただいた結果だと思っています。

「生まれた地域で暮らせること」が将来の夢でしたが、現実になりました。まだまだこのような施設が足りません。後に続けるよう、協力していきたいと思えます。3人の子どももそれぞれ独立し、近くで見守っていけることは、とても幸せです。

(取材：前田幸子 真殿尊子 坂下佳子)

とっておきの一枚

月に一度の特別メニュー



たちばな棟では、イベント事として月に一度の特別メニューがあり季節行事や誕生日にはケーキなどでお祝いをしています。

8月の特別メニューはエビフライ・コーンスープ・サラダ、デザートにエクレアでした。

特別メニューの時は、利用者さんにスープの取り分けや野菜の盛り付けなど手伝ってもらい支援員と一緒に作っています。一つ一つ量を調整しながら、スープの取り分けや野菜などの盛り付けをしてくれています。

最初にデザートを食べる利用者さんや最後に食べる利用者さん人それぞれでした。皆さん早々に完食され満足された様子でした。

他にもクリスマスなどの季節行事では色々な種類の入ったケーキなども食べたりしました。

8月末には利用者さんの誕生日もあるので、ケーキなど用意してお祝いしたいと思います。

(ケアホームいりどり 大木雄大)

商品紹介

Cグループ 土染めコースター

今年度から始めた土染め。土顔料を使用しています。力いっぱい思いを込めて作った作品です。今年のあらぐさカタログにも掲載しているので、ぜひご覧下さい。

販売価格 1枚¥100



あらぐさ後援会 加入・募金 (敬称略) <10ページより続き>

前田良子 増田尚 増田弘子 増田康夫 増田靖子 松浦佳織 松岡稔 松島朱美 松村昭子 松山幸次 松山雅子 真殿尊子 丸山彰子 三浦朱葉 三木理枝 三島春子 水口秋子 三谷文菜 三野真里奈 三橋真子 三宅善昭 宮崎俊一 宮嶋均 宮嶋節代 宮本悦子 宮本史朗 宮本靖子 村上宏 村上すみ子 村野英介 村山容祥 森清 森下純平 八木勝光 八木千代子 安井冽

有限会社ヤスイカメラ 安井鈴美 安田耕治 安田隆 安武梢 安武真理 藪見富喜男 山口計子 山下紀子 山田央 山中啓三 横川和男 横川喜美江 横山和子 横山昌子 吉川泰史 吉永純 吉本久枝 療術院うえの上野徳太 渡邊恋梨 渡辺裕子 渡辺洋一 渡辺尚子 匿名35名



全障研全国大会 参加者感想



・全障研全国大会に参加して、障害がある人の生活は、様々なモノやヒトなどの支えによって、成り立っていると改めて感じました。そして障害があることで、抱えなければならない悩みや問題があり、そのことが自分らしく生きることの障壁になっているのだと感じました。就労支援の分科会では、支援の一環としての「働く」ではなく、働くための支援をするべきだと気付かされました。今回学んだことを生かし、みんなが笑顔で動き続けられるよう、支援していきたいと思えます。

下路

・今回2日間、全障研全国大会に参加し、2日目はレポーターとして発表しました。重症心身障害の分科会に参加し、沢山の人の前でレポートを発表することに初めは緊張していました。しかし幼児期や学童期など様々な分野での実践報告を聞き、それぞれ違う分野ですが、同じ重症心身障害者の方と関わっている方達なのだ実感し、それぞれの実践を共有することの大切さを知りました。全国から人が集まり、学びたい、知りたい、と言う気持ちがたくさんつまった全国大会でした。

宮本



分科会：全障研写真提供



・8月6日(土)、7日(日)の2日間、ボランティアスタッフとして全障研大会に参加してきました。内容は、大会に参加される保護者のお子さん(16歳以上のなかまの方が楽しむ場「なかまのつどい」でのサポートスタッフでした。楽器を使って音楽を楽しんだり、ウォーキングラリーで会場の大学を歩いたり、それぞれしたい事に参加して楽しみました。初めて出会う方達でしたが、どの方もすぐに仲良くなり、短期間でしたが笑顔いっぱいの時間でした。色々なスタッフが大会を支えているのだと実感しました。

鞍貫



熊本地方大震災 災害支援報告

鞍貫 聡史

きょうされんからの要請を受けて、被災から1ヶ月目になる熊本へ災害支援に行ってきました。熊本に集合したのは、北は東京、南は沖縄まで約30名の事業所職員やきょうされんスタッフです。初日は全員で被害の大きかった益城町まで行きました。赤札の貼られた全壊の家でもそこに住み続ける人や、車中泊を続けている人が沢山いて、心が痛みました。

2日目からは2人1組のグループに分かれて訪問調査を行いました。障害福祉サービスを受けていない65歳以下の障害者の安否確認やニーズを、リストを見ながら1軒ずつ調査しました。比較的震災被害の小さな地区を担当したのですが、どの家でもライフラインが止まった事によって大きな被害を受けていました。ある心臓疾患を持つ女の子の母親は、停電によって酸素を送る機械が止まり命の危険があったと話されていました。水がとまったことで人工透析がまともに受けられない方もいました。



また、避難所での障害者への配慮が不十分で、理解のない方の声があったり、身体障害があっても炊き出しには2時間並ばないといけなかったといった話を聞かせて頂きました。こういった時に負担のかかるのは、やはり支援を必要とする方達なのだと改めて思い知らされました。

そんな中でも、普段から地域の人たちと繋がりのある家庭では、周囲の人から理解を得ており避難所でも対応してもらえたそうです。繋がることの力強さを感じることができました。

今回の訪問では、ほんの少ししか話を聞くことができなかったのですが、どの方も「話を聞いてくれて嬉しかった。」「見捨てられていると思っていました。」ということ伝えてくれました。しかしここで



終わってしまっただけでは意味がありません。まだまだ被災地の状況は良くなっていない中で、引き続き障害者の方々のニーズに応えられるよう、継続した支援が必要です。今後も被災地の状況に目を向け続けていくことが大切だと思います。



(筆者 前列中央)

障害福祉センターあらぐさ 職員

渡邊 恋梨 さん

わたなべ れな



今年から新しくあらぐさに入りました、渡邊恋梨です。ディセンター1のCグループ職員になり、まだ数か月しか経っていませんが、一日一日を重ねることで、私自身を認識してもらえているように思います。

数か月前まで学生だった私が、障害のある人と接したいとの関心が高まったきっかけは、去年の就職活動中でした。元々、お年寄りが好きということもあり、介護職に就くことを目指し、さまざまな福祉施設が紹介される福祉フェスタに参加している日々でした。

就職活動を始めると同時に、お年寄りだけではなく、子どもたちとも触れ合っていたいと思いたち、児童館でボランティアを始めました。その時に、私が関わった子どもたちは、ダウン症や知的障害のある子どもたちでした。今まで、障害のある人と関わる接点がなかったため、今では分かることも分からなかったりしました。そんな気持ちの動揺があり、もどかしくなったことが何度もありました。しかし、

私がかけた言葉や返答で笑ったり、喜んでもらえる時は、私も自然と笑顔になっていました。それから、障害ということを考えることが増え、知識を知っているだけではなく、経験しなければ気づけないことがあると実感し、障害にも視野を広めようと決心しました。

後日、いくつかの障害施設の話聞いた中の1つがこの「あらぐさ」でした。オリジナルのデザインや製品作りの活動、充実した日常生活などに他にはない良さを感じました。また、障害のある人と向き合いたいと想えるような場所であると感じ、あらぐさに就職を決めました。

今では、あらぐさの職員として、楽しく利用者さんと活動しています。これから、一人一人の想いに気づき、少しずつ壁をなくしていけるよう成長していきたいです。よろしくお願いします。

やさしい街づくりを応援！ みんなで楽しく交流しましょう！

みんなおいでよ あらぐさひろば



◆ 2016年10月23日(日) 午前11時～午後2時

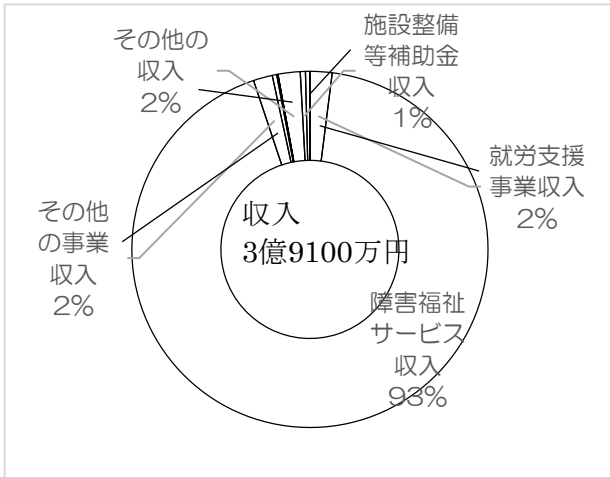
◆ 障害福祉センターあらぐさ

演奏、模擬店、遊びコーナー、物品販売、展示

今年もフィナーレは福引きです

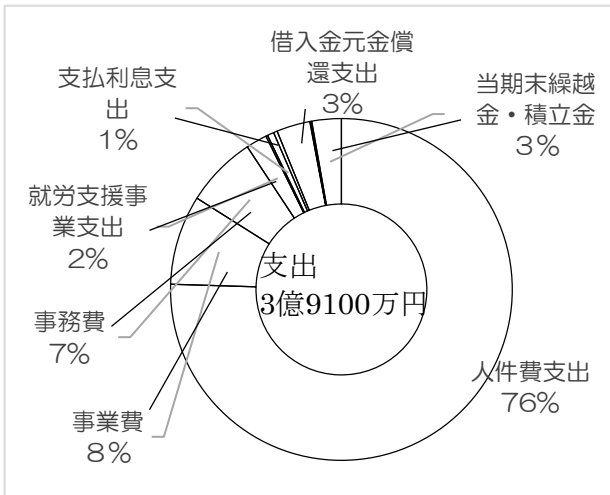
(詳細はチラシをご覧ください)

平成27年度 社会福祉法人あらぐさ福祉会 財務状況



(収入)

障害福祉サービス収入
 …障害福祉サービスに対する国、地方公共団体からの介護給付費



(支出)

人件費支出
 …常勤職員 52人 非常勤職員 76人
 事業費
 …主に利用者の活動に関わる支出
 事務費
 …運営事務に要する支出
 借入金元本償還支出
 …建物・土地の借入金返済分

(27年度の特徴)

27年度は、新規で大きな事業はなく、各障害福祉サービス事業（生活介護事業・就労継続支援 B 型・共同生活援助事業・居宅介護事業等・相談支援事業等）を進めてきた。各事業の支援を安定させていくことを目標に人づくりを重点に行った。

財務諸表についてはあらぐさホームページに公開しています。

<http://www.aragusa-fukushi.jp/>

あらぐさ後援会 加入・募金 ありがとうございます

4月1日～7月31日 敬称略・順不同

青嶋芳文 赤城博子 秋山喜美江 阿波谷陽子
栗野賢 井垣優 生路智子 池田恭子 池田広子
池田泰子 池田芳子 池辺俊太郎 石田秀子
石堂宏宜 伊丹路恵 一谷孝 伊地知新太
伊地知洋晃 伊地知有華 伊藤五郎 伊藤憲一
稲葉薫 因幡広和 今井三郎 今井千代子 岩倉
美希 植田進 上田義博 上野志保子 江後良平
大江潤 大釜和子 大木雄大 大島武子 大谷
智子 大槻さつき 大月裕子 大槻裕治 大坪
晴美 岡本敦子 小川貴士 小川真寿美 荻原
義幸 奥山禎二郎 小田淑子 小谷勝利 乙訓医
療生活協同組合 乙訓地区労働組合協議会 甲斐
幸子 垣内望美 梶尾捷次 医療法人社団片岡診
療所 勝良和子 桂誠司 金森たえ子 金子
美智子 河合隆平 河村千鶴子 神田千秋 北村
民子 木村篤哉 京都府立向日が丘支援学校
PTA 共和運送株式会社 草野廣 久保節子
くぼた医院 鞍貫聡史 倉橋克之 黒木サキ子
粉川晴美 小林まゆみ 小林美恵子 近藤健二
近藤牧子 齊田昭子 齊藤泰樹 崔本鐘光 佐伯
敏子 坂下佳子 坂本憲哉 桜田吉昭 佐々木
和隆 佐々木康二 佐藤敦子 佐野顯治 佐野
さかえ 塩尻光明 嶋本芳輝 嶋本美恵 清水
富子 下路晴香 新免富美子 杉谷伸夫 鈴木
純子 砂山知子 角摂子 住田初恵 瀬川光子

節田もと 全国福祉保育労働組合京都地方本部あ
らぐさ分会 宋彦一 田上玲子 鷹野安子 高橋
久美子 高橋嘉子 竹澤哲夫 立山純治 田中
正恭 田中洋子 田中善久 田中礼子 谷川邦宏
谷口忠行 谷口弘子 玉井左智子 俵福造 築出
邦子 辻真菜美 辻本勝浩 辻本恭子 津田拓也
津田みさ子 出口志鶴子 都出とし子 時田麻里
富島ますみ 富永洋子 鳥居敏江 内藤時子
内藤秀春 内藤敬子 内藤基雄 中川慶子 中川
政之 中川千津子 中川綾子 永崎靖彦 中島
悠太 司法書士中西正人 中野功 中野史子
中野司 中野修 中村弘子 中村文子 中山
恵美子 中山千恵子 夏原典子 西幹夫 西井
美千代 西田政子 西田良平 西村宗昭 けやき
の家代表野々下靖子 橋口マサ子 橋爪早苗
長谷川朋子 長谷川長昭 波多由紀子 畠中
清子 畠中勇治 濱川君代 濱中信彦 浜野
亜希子 浜野利夫 浜野紘久 早川美智子 林
英夫 原木康夫 原木とし子 原田文孝 春田
石油有限会社 ぱんだ企画 久本幸満子 平井
多津子 平田喜裕 平野みどり 平山功 廣瀬
彩子 広瀬美砂 福山八千代 藤井則男 藤井
久子 藤本秀延 古川・片田綜合法律事務所
ペーカリーセルフイーユ 堀江幸男 本多三郎
前田幸子 前田真之介 前田仁 <5ページに続く>

2016年度のあらぐさ後援会のご加入・更新をお願いします。郵便振替用紙を同封してありますのでご利用ください。ご入金と行き違いになりました場合は、なにとぞご容赦ください。あらぐさ支援募金にもご協力をお願いいたします。

1992年6月5日 第3種郵便物承認(毎月1回25日発行) 2016年9月30日発行
KTK増刊通巻第4490号 発行所 京都障害者団体定期刊行物協会
〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル中之町519 京都社会福祉会館4階
京都障病棟内 発行人 高谷修 頒価50円(購読料は会費に含まれています)